

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
 会長 浦田日出雄
 事務局長 齋藤 昇一
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>
 印刷所 (株) 北海プリント
 TEL (011)811-2396

平成25年度 青少年読書感想文全道コンクール 入賞者決定!!

今年も全道から、たくさんの素晴らしい作品が集まりました。第1次、第2次審査を経て、入賞者が決定しました。12月1日(日)に晴れの表彰式が行われます。入賞者の皆さん、おめでとうございます。

第59回 青少年読書感想文全道コンクール 第39回 北海道指定図書読書感想文コンクール

特別賞入賞者一覧

北海道知事賞

- *「メガネをかけたら」を読んで
- *無償の愛～狐笛のかなた
- *つばさ

北海道議会議長賞

- *ぼくのVサイン「お父さんのVサイン」を読んで
- *ナイチンゲールとわたしのゆめ
- *銀河の旅で本当の幸せを考えて
- *「夏の庭」を読んで
- *「遺書」を読んで

北海道教育委員会教育長賞

- *「いっしょだよ」を読んで
- *ゾウの瞳とぼく
- *「はるかなるアフガニスタン」を読んで
- *「明るい希望～ふり返らず、前へ～」
- *希望への《ひかり》を信じて

北海道学校図書館協会会長賞

- *「エジソン」を読んで
- *いのちのうつわ
- *「オムレツ屋」へようこそ！を読んで
- ・「生きること」の意味
- ・「数奇な運命のなかで…」

毎日新聞社賞

- ・メガネをかけたら
- ・「羅生門」と出会って
- ・目に見えない宝物
- ・置かれた場所で咲きなさいを読んで
- ・一粒の麦

北海道読書推進運動協議会長賞

- ・たくさんのいっしょ
- ・走り続ける
- ・「これからの誕生日」を読んで
- ・地球のために始めようー岡部達平さんから学んだこと
- ・『一步を踏み出す勇気』

北海道青少年育成協会会長賞

- ・今日から変わる私
- ・「つるかめ助産院」を読んで
- ・かあちゃんのおべんとうだいすき
- ・おいしい勉強
- ・生きる重みを受けとめて
- ・「生きる」こと「死ぬ」こと

北海道教育文化協会賞

- ・少年H
- ・踏み出す勇気～明日はきっと変えられる～
- ・「氷」は地球をまもっている
- ・「オムレツ屋へようこそ！」を読んで

はるにれ賞

- ・ぼくの「いちばん」
- ・「愛」
- ・「吃音センセイ」を読んで
- ・挑戦～勇人と共に学んだこと～
- ・「いちばんは大すきの中に」

教育出版社賞

- ・小学校の部
- ・中学校の部
- ・高等学校の部

文研出版社賞

北海道図書教材協会賞

図書館ネットワーク賞

北海道教育評論社賞

光陽社賞

学校賞

室蘭市旭ヶ丘小	2年	大西	澄佳
札幌市宮の森中	1年	清水	環
旭川東高	1年	青木	杏佳
室蘭市水元小	2年	三村	建成
函館市深堀小	3年	秋本	萌々花
八雲町東野小	6年	渡部	真緒
遺愛女子中	2年	穴田	茜
岩見沢東高	1年	南	春花
小樽市緑小	2年	齊藤	大翔
函館市深堀小	4年	漆畑	元基
札幌市手稲北小	6年	竹達	望結
小樽市松ヶ枝中	3年	白井	芽瑠
札幌南高	3年	伊田	菜々花
函館市金堀小	2年	井上	総
函館市深堀小	4年	大隅	守
小平町小平小	5年	土井川	慧美
登別明日中等教育	3年	鈴木穂	乃香
旭川東高	2年	飯村	言葉
函館市北美原小	2年	山田	青弘
網走市南小	3年	田中	飛鳥
北斗市浜小	6年	小平	彩夏
岩見沢市光陵中	2年	青嶋	佑夏
函館中部高	1年	鈴木	麻友
室蘭市八丁平小	2年	三島	大輝
岩見沢市緑中	1年	荒井	愛海
函館中部高	1年	吉田	遥香
札幌市前田中央小	6年	小西	海翔
藤女子中	3年	野田	梨華
小樽市緑小	6年	樽見	楓南
旭川西高	3年	林	沙耶花
士別市士別南小	1年	小野真	由子
旭川市神楽小	4年	中島	瑠花
留萌市留萌小	6年	野々村	奏風
岩見沢市光陵中	3年	奥田	汐莉
旭川東高	2年	岡崎	由花
札幌市向陵中	3年	市原	茉莉
市立函館高	2年	中島	澪
旭川市朝日小	4年	坂田	玲
函館市桔梗小	5年	鳴海	清花
旭川市緑新小	2年	奥野	隼輔
岩見沢市第一小	4年	三木	優奈
函館市えさん小	4年	山内	愛梨
幕別町白人小	6年	西山	藍那
函館市八幡小	2年	島崎	乃栄
函館市立深堀小学校			
岩見沢市立光陵中学校			
北海道旭川東高等学校			

*印は、全国コンクール応募北海道代表(自由・課題)作品です。

北海道知事賞

「メガネをかけたら」を読んで

室蘭市立旭ヶ丘小学校 2年 大西 澄 佳

わたしが、はじめてこの本を読んだとき、どうしてこの女の子は、いろいろなりゆうをつけて、メガネをかけるのをすごくいやがっているのかなと思いました。メガネをかけたからといって、たしかにこの女の子が言っているように、かしこくなるわけでも、かわくなるわけでも、空をとべるわけでもありません。でも、きっと、ほかの人とちがったことをするのがこわかったり、ふあんだったり、はずかしかったりする気持ちからにげるために、このようなことをわざと言って、気持ちをまぎらわしているのかなと思いました。

わたしは、この女の子とちがって、小さいときからメガネにきょうみがあって、おもちゃのメガネを買ってもらったり、目がわるくなるようにわざとテレビを近くで見たりしていました。たぶん、わたしのまわりでメガネをかけている人が多くいたから、メガネをかけるのがふつうだと思っていたのかもしれないです。おとうさんに、「メガネをかけていて、いいな。」と言ったことがありました。そのとき、「おふろに入っても何も見えないし、ね

ているときにじしんがきてもすぐにげられないし、べつにメガネなんていいものじゃないよ。」と、おとうさんは言いました。それでもわたしは、メガネにあこがれていました。

でも、もう一どこの本を読んだとき、やっぱり一人だけちがうことをするのはいやだなと思い、女の子の気持ちやすこしだけわかったような気がしました。

そして何よりも、おかあさんと先生たちのやさしさやきょうりよくする気持ちがすごいと思いました。女の子の気持ちを考えて、ふあんとりのぞいたり、ゆう気やじしんをもってもらったりするために、みんながメガネをかけてきてくれたことに、わたしはうれしくなりました。どんなときでも、ほかの人を思いやる気持ちをもって生活することを、わたしは大せつにしていきたいと思いました。

(くすのきしげのり 作『メガネをかけたら』)

総 評

審査委員長 門前 智 (札幌市立青葉中学校長)

今年の第59回青少年読書感想文全道コンクール、第39回北海道指定図書読書感想文コンクールには、全道各地から、613点もの力のこもった作品が寄せられました。各支部で厳正に審査され、選り抜かれた作品がそろい、指導に当たられた先生方の情熱や子どもたちを支えて下さった保護者の皆様の熱意が、作品を通じてしっかりと伝わってきました。今回の最終審査会でも、25名の審査員が、5部門に分かれて、時間をかけ、熱心に話し合い、作品に込められた子どもたちの思いを十分に受け止めながら審査を行って参りました。以下、部門ごとの、応募作品における大まかな傾向について述べたいと思います。

まず小学校低学年の作品には、登場人物の行動や言葉から、豊かに想像を広げて書いているものも多く見られました。また、子どもらしい素直な表現に自分なりの感じ方を込めた作品も多く、好感が持てました。中学年の作品には、原作の持つ魅力をきちんととらえた上で、自分の考えや主張をはっきりと書いている作品が多く、書き手の明確な意志が伝わってきました。高学年の作品には、生命や生きる力、人と人とのきずな、あるいは幸福に関するテーマを取り上げたものが多かったようです。自分の体験や社会の状況に目を向けるだけでなく、自分に問いかけ、考えを深めた作品が高い評価を得ています。中学生の作品には、原作の世界に没入し、登場人物に感情移入した作品が多く見られました。その中でも、自分の考えを深く掘り下げ、表現力豊かに書き綴った作品が上位を占めています。高等学校・勤労青少年の部では、多岐にわたるテーマを取り上げ、読書で得た感動を部活動などの自らの体験と重ね合わせ、共感的に表現した作品が多く見られました。

これからも、豊かな読書体験を通じて、心を耕し、日々成長していったほしいと強く願っています。

北海道知事賞

無償の愛～狐笛のかなた

愛とは、何だろうか。命とは何だろうか。私は以前、上橋菜穂子さんの『獣の奏者』や『精霊の守り人』を読み、それぞれの主人公のあたたかさや、差別を乗り越えていく強い気持ちに、自分もそうであれば良いのにと何度も思い、読み返す度に感動した。その記憶が今でもくっきりと残っていたので、この夏、同じ上橋菜穂子さんの『狐笛のかなた』を手にとった。今回は日本を舞台にしたファンタジーだ。そしてもちろん、今回も胸の深いところが熱くなるような感動を覚えた。それと同時に、命をかけて自分を犠牲にしてまでも、誰かを守り愛することの強さや重み、尊さというものを私は知った。

〈あわい〉に生まれ、使い魔として生きる野火。〈聞き耳〉の力を受け継いでしまった小夜。そして、森陰屋敷に一人幽閉されている少年、小春丸。それぞれ孤独に育ってきた彼らは、血のつながりのある兄弟がつくった過去の因縁と呪いに巻き込まれながらも、家族や幼いころの思い出と共に、愛を知り、成長していく。私はこのあらすじを知った時、すでにこの本に惹き込まれていた。

小夜の母はいけないことだとわかっていて、大領主との子、つまり小夜を宿してしまった。小夜がそのことを知った時、小夜のことを小さい頃から知っている鈴が小夜に向かって、「ねえ、小夜、思わない？ どうしようもない思いつて、あるよね。その思いを守るために、人から見たらばかだなあと思うようなことをしてしまうことも、あるよね。」と、なぐさめの言葉をかけた。しかし、似た経験のある鈴も自分でも思い出してしまうのに、この言葉を伝えたことに、鈴の優しさを感じた。野火は主に逆らってまで小夜を救い、愛する。小夜もまた、かなわぬ愛とわかっていても、野火を愛し続ける。敵対した関係にある二人の愛はかなうはずもないと互いにわかっている。相手に何ひとつ求めようとしない無償の愛だ。無償の愛なんて…と思うかもしれない。確かにこれは本の中の世界だが、私達の世界にも無償の愛はあふれていると思う。例えば、両親や家族は私のことを愛してくれているし、私も家族を愛している。これは、見返りを求めるわけではない。何をしてほしいわけでもない、無償の愛。

私が幼稚園のころ、外部から来て下さった方がまだ幼い私達に問いかけた。

「生きるために一番大切なものって、何だと思う？」
水、空気などの答えが上がった。すると、
「そうだね。どれも大事だね。でもね、この世で一番

札幌市立宮の森中学校 1年 清水 環
大切なもの、それは、愛だよ。」

その時は理解していなかったが、今思い出すと本当にそうだと思う。無償の愛はこの世で一番大切だと、この本を読んで改めて思った。

小夜には〈聞き耳〉の力がある。たくさん人の〈思い〉を聞いてしまって苦しいこともたくさんある。だが私は、小夜の亡き母の面影が、力を通じて残っていることに感動した。私は今までの体験から、人には話す力も大切だが、それ以上に聞く力が重要なのではないかと思う。なぜかという、人に信頼され人望も厚い人は、私の周りを見ても皆、聞き上手なのだ。優しくておだやかな人には、聞く力がある。私は、自分にはあまり人の話を聞く力がないと思う。いつも自分が話してばかりなんだと、この本を読んで実感した。そこで最近、私は自分が意見を言う前に、他の人の話を聞いてみることにした。すると、見えていた世界が変わった。というより、広がったのだ。普段の学校生活の中でも、今まで私の話を聞く一方だった友人が、たくさん自分のことを話してくれるようになり、「ああ、この子はこういう考えをする子なんだ。」などと、新しい発見が多くあった。そうしてみると、今までより何だか楽しくなった。『狐笛のかなた』は、私に新たな発見をさせてくれた本でもある。

私はこの本を読んで、家族・命・愛、という、普段あまり口にしないことについて、たくさん考えさせられた。それは、私達が生きる上で、生まれた瞬間から私達に備わっているものだ。生活の中で最も身近にあるのに、ほとんど話題にしないのはなぜか。それはおそらく、口に出す前に行動しているからだと思う。大切な人達を助け、事あるごとに心から応援し、一緒に涙を流す。それだけでもう大きな愛なのだ。だから、口に出して言う必要があまりないのだと思う。少し重いかもしれないが、この言葉、これ自体の美しさ、繊細さ、尊さに、改めて気づかされた。深く考えたことなかったものを考える機会を与えてくれた、『狐笛のかなた』に感謝したい。

私は、これから生きていく上で、ささいなことでも人を助けてあげられる人になりたい。見返りを求めずに人を大切に、信頼される人になりたい。人の話を正面から受け止め、どんな困難な状況にあっても、小夜のように真っすぐ生きていきたいと思う。

(上橋菜穂子 著・
白井弓子 画『狐笛のかなた』)

北海道知事賞

つばさ

千羽鶴。一羽折るだけでも手間のかかる折り鶴。人は悲しみを抱いた時、祈りを込めて千羽鶴を折る……。

折り紙を買った時、まず最初に折るのが決まって折り鶴のような気がする。折り紙の袋の裏には必ずと言って良いほど、折り鶴の折り方が印刷されていた。私達にとって、身近でも誰もが知っている折り鶴。しかし、祈りを込めて千羽を折る事は私にはまだない。

「鶴は千年、亀は万年生きる」という言い伝えがあるように、鶴を千羽折ることが出来れば、その願いが叶うと言われてきた。病人やけが人のお見舞いの品、そして、平和を願うシンボルとして、千羽鶴は、折る者の祈りの形となった。

原子爆弾が落とされた広島や長崎に、世界平和を祈るたくさんの千羽鶴がある。広島平和記念公園には、命を落とした大勢の子供達を弔い、千羽鶴の束に囲まれた少女の慰霊碑がある。この少女は、1945年8月6日、2歳の時に広島で被爆。その後白血病と闘い、12歳という短い生涯を遂げる。病床で病が治ることを祈り、懸命に千羽鶴を折り続けた。

慰霊碑の少女は、大きな折り鶴を天高く仰ぎ持ち、二度と戦争はあってはならないと伝えてくれているように見える。

この本は、少女が実際に折った折り鶴が、大切に残され、現代に至るまでの平和を繋ぐ折り鶴としての出来事が紹介されていた。一羽一羽の折り鶴が少女の気持ちも乗せ、しっかりと使命を果たしているようでもあり、改めて戦争の痛ましさを感じずにはいられなかった。

戦争の痛ましさを感じると、私は簡単に言ってしまうが、どれだけ理解できているのか自信が持てない。余りにつらい体験をした人は、心の奥にしまい、簡単には口に出せないと言う。戦争には様々な立場の人がいる。立場の違いで考え方も多様であるが、どのような立場であれ、今、共通して語り継がれることは、戦争はあってはならないということ。立場が違っていても思いは同じである事。本の中に、元神風特攻隊員とアメリカ人元海軍兵の対談の章があった。どちらも奇跡的に生還された方達で、生かされてるからこそ、あの時の事を話さないといけないとおっしゃっている。お国のためにと、誇りを持ってアメリカの軍艦に体当たりする神風特攻隊。突撃前に撮った写真には、十代のあどけない笑顔があった。突撃後そこにあるものは敵の死と自分の死しかない。しかし、運良く生き残ったとしても、戦友達は名誉の死を遂げ、自分だけ生き残ったという罪の意識に苦しんだと

北海道旭川東高等学校 1年 青木杏佳

言う。逆にアメリカ軍兵士は「神風特攻隊は死を恐れず、身を捨てて私達を襲って来るので恐怖そのものだった」と言う。政府からは「神風は狂人だ」と教えられていたという。しかし、彼が攻撃にあった時、神風のパイロットの顔がはっきり見えたという。当時の自分と変わらない17、8位の若者の顔だったと。機体と共に船体に一直線に突っ込んで自ら命をおとしたそのパイロットの幼さが残った顔が、今でも忘れられないという。

対談は最後にこう締めくくられていた。

「あの時思ったことは、私達は今まで会ったことさえない。個人的には憎しみ合っていない私達が、なぜお互い、殺し合わなければならないのか。」

正気でいられない戦いの中、両者が一瞬、正気に戻れた時の「何故？」という思いが、生き残った人生の葛藤からの救いになったのではないだろうか。

立場の違いはあっても、思いは同じであること、そして何より、本来なら会わずにいたいであろう方達が語って下さった勇気に、私は胸が詰まった。

戦争が残した重苦しい落し物が、私の知らない所に多く残されている。戦争によってどんな結果をもたらされたかを、国と国の立場から見直し、「和解」というテーマに焦点をあて対談する。両国の兵士、両国の犠牲になった一般人、両国の生き残ったがゆえに苦しむ人々。両国の戦争を体験していない者は、過去の過ちとして自国に責任を持つ。同じ傷を負った者として、理解し合える交流が平和な証しだと思う。反面、戦後の世の中は、物質主義になり、私達は豊かさを手に入れた。何よりも経済力重視になり、ゆがんだ社会、自己中心的な考えに偏りがちになっている。元特攻隊員へ、自分の命と引きかえに守った今の日本をどう思うか？との問いかけに、いくら腐った社会でも戦争よりはましだという。

今、私の机の上に一羽の折り鶴がいる。

翼は祈りを運んで欲しいと願う。

戦闘機の翼であってはならない。

原爆を落とした爆撃機であってはならない。

9・11のようなハイジャック機であってはならない。

攻撃の手段の翼は、もういらぬ。

一番大切なのは、いのちだから。

(源 和子 著『奇跡はつばさに乗って』)

北海道議会議長賞

ナイチンゲールとわたしのゆめ

函館市立深堀小学校 3年 秋 本 萌々花

「わたしは大きくなったらかごしになりたい。」
それが今のわたしのゆめです。

びょうきの人やケガをしている人をすこしでも
たすけてあげたい。

図書室でこの本を見た時、ナイチンゲールはか
んごしとして、どんな一生をおくったのか知りた
いと思いました。そして、どんなふうにびょうき
の人たちにせっしていたのかなと考えました。

ナイチンゲールは、家ぞくの反対をおしきって
まで人のためにはたらくかごしになりたかった
のです。それは、すごく強い心を持っているとい
うことです。

わたしは、

「すごい！ナイチンゲールは本当にかんごしと
してはたらきたかったのだな。」

とむねがいたいほどわかりました。

もしもわたしだったら、家ぞくに反対されたら
あきらめてしまうかもしれません。でもあとできっ
とこうかいすると思います。

だからナイチンゲールのように強くてやさしい
心を持って、ゆめをかなえるど力をしたいと思
います。

やさしい心は人にとって大切ですが、やさしい
だけではなくものごとを正しく見る目と、強い心
がなければせっかくのやさしさも役に立ちません。
ナイチンゲールはやさしさを役にたつものにする
ために、自分自身とたたかいまわりともたたかい
つづけたのです。そしてかごしがりっぱな仕事
であることをよの中にみとめさせたのです。

ナイチンゲールはべん強したことをいかして、
さいしょにロンドンのびょういんで入いんしてい
る人の食事をはこぶリフト、お湯をとおすパイプ、
かん者がかごしをよぶ「ナースコール」などを
とりつけるようはたらきかけました。

わたしは、ナイチンゲールが今の時だいにやく
にたつものをもってきてくれてよかったなと思
います。きっとそれがなかったら、大へんにちがい
ありません。

そしてへいしたちのきゅうりょうの一部を家ぞ
くにおくれるようにてはいしたのもナイチンゲ
ールです。お酒などに使っていたお金を家ぞくに
おくれるという目ひょうをもって使えるようになり、
へいしたちは、顔がやさしくなったと本に書いて
ありました。

へいしたちの心の中のことまで考えて、ナイチ
ンゲールは、本当にすごくやさしいんだなあと心
があたたかくなりました。

ナイチンゲールの本を読んで、わたしは、ナイ
チンゲールのようにやさしさと強い心をもって、
人の苦しみをやわらげられるそんなかごしにな
りたいと思いました。かごしになるには、きっ
と大へんなこともたくさんあると思います。でも、
ナイチンゲールを目ひょうに、強い心をわすれず
にがんばって、いつか、ナイチンゲール記章を
もらえたらいいなと思いました。

(早野美智代 著『ナイチンゲール』)

北海道議会議長賞**銀河の旅で本当の幸せを考えて**八雲町立東野小学校 6年 **渡部 真緒**

「銀河ステーション、銀河ステーション」と言っているのは、いったい誰の声？ ジョバンニとカムパネルラは、いったいつの間に汽車に乗ったの？——読み進めて間もなく、私の頭の中は疑問符でいっぱいになった。

本屋でこの本を見つけた時、私は迷わずすぐ手に取った。去年、国語の授業で宮沢賢治の「雪わたり」を学習した時のことを思い出したからだ。あの時も始めは難しくてわからないことが沢山あったけれど、クラスの友達と一緒に読み進めていくうちに、難しさが楽しさ変わっていく心地よさを味わった。まさに、パズルを組み立てていく面白さだった。

しかし、この物語は簡単に私をそうはさせてくれなかった。だから、何度読み返したことだろう。これは現実なのか、夢の中の事なのか——私はジョバンニとカムパネルラの不思議な銀河の旅に、いつの間にかどンドン引き込まれていた。最初は、仲の良い友達同士が汽車に乗り、銀河を旅するファンタジーだと思っていた。でも、それは大きな間違いだった事に気づかされた。それから私は、「幸福とはどういうことなのか。」という難題に大いに悩まされた。自分がこれまで考えていた幸福の意味とは全く違っていたからだ。

私は一人っ子で、いつも両親や周りの人達にしてもらう事に慣れてしまっていて、人への気遣いに欠ける自己中心的な自分になっていたと思う。以前私が体調が悪くて教室で吐いてしまった時、友達がすぐに駆けつけ、きれいに拭いてくれた事がある。(どうしてそんな事ができるの) と私は友

達のその行動に驚いたことを忘れない。いつか友達が意地悪な事を言われていた時でも、私は何も言えず黙ったままだった。カムパネルラのように母や周りの人達の幸せの事を私は今まで一度も考えた事がなかった。それどころか、おいしい物を食べたり、ほしい物が手に入った時が幸福だと、ただ漠然と考えているだけだった。

「ぼくはおっかさんが、本当に幸いになるなら、どんなことでもする。誰だって本当にいいことをしたら、一番さいわいなんだねえ。」とカムパネルラは話していた。自分だけが幸せだと感じられる事が幸福なのではなく、誰かが幸せだと感じる事が本当の幸福なのだということを、私はしみじみと教えられた。

そして、ザネリを助けるために川へ飛び込んだカムパネルラの行動が、誰しもが汚いと思う物を、そうは考えずにすぐに拭いてくれた友達の行動と、しっかり重なった。と同時に、そんな友達の行動に感謝するより先に驚いてしまった自分を、恥ずかしいと思った。自分の心に欠けていたジグソーパズルのピースを一つ見つけたような気がする。

私の家の前の、空に向かって真っすぐ伸びるメタセコイヤの木。その先に広がる満天の星の中に、今、ジョバンニとカムパネルラを乗せた銀河鉄道が見えるような気がする。どこからともなく聞こえる「銀河ステーション、銀河ステーション」という声と共に……。

(宮沢賢治 著『銀河鉄道の夜』)

優 秀 賞

小学校（低学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・「ちょっとだけ」	押 川 心	小樽市緑小	1年
・「おとうさんのVサイン」をよんで	蛭 澤 は る	室蘭市天沢小	1年
・おこだでませんようにをよんで	小 林 大 輝	函館市北美原小	1年
・きみのパパはいい人です	大河内 貫 志	士別市士別小	2年
・「メガネをかけたら」	河 邊 梨 花	小樽市緑小	2年
・「わたしのいちばんあのこの1ばん」を読んで	小 川 弓 来	小樽市緑小	2年
・「わたしのいちばんあのこの1ばん」を読んで	長浜谷 圭 資	函館市金堀小	2年
・わたしのいちばんあのこの1ばん	井 川 若 菜	函館市中の沢小	2年
・食べものはいのち	木 村 愛 華	士別市士別小	2年
・みんなのいのちいただきます	藤 元 空	函館市本通小	2年
・いのちたち、いただきます	亀 山 寧 々	教育大附属札幌小	1年
・もう一つの1番がすき	松 永 凜汰朗	北斗市浜分小	2年

小学校（中学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・ひろしまのピカを読んで	須 貝 彩 乃	小樽市緑小	4年
・「けんかにかんばい！」を読んで	岩 井 冠	北斗市萩野小	3年
・「いのちをいただく」を読んで	金 子 葵	函館市北美原小	4年
・外見だけで決めつけないぞ	大 浦 早 藍	苫小牧市明野小	4年
・ゾウと人間がいつまでも幸せに暮らせますように	鈴 木 溪 介	小樽市潮見台小	4年
・「こおり」を読んで	田 原 遥	室蘭市高砂小	3年
・「本当の友情って？」	武 居 佐 和	滝川市滝川第一小	4年
・『ゾウの森とポテトチップス』	鳥 巢 友 那	岩見沢市東小	4年
・「ゆきのよあけ」を読んで	二 本 柳 翔 太	函館市大船小	4年
・「あしたもきっとチョウ日和」を読んで	平 塚 里 緒 菜	室蘭市海陽小	4年
・きびしい自然に負けないで	緋 田 純 菜	函館市桔梗小	4年
・「あしたもきっとチョウ日和」を読んで	宮 澤 な な	小樽市天神小	3年

小学校（高学年）の部（12名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・「命の輝き」を読んで	角 泉 美	留萌市港北小	6年
・『こども電車』	今 藤 彩 夏	留萌市緑丘小	5年
・「たいせつな友達」を読んで	永 井 ことみ	函館市北美原小	5年
・「五体不満足」を読んで	上 井 優 里	室蘭市水元小	5年
・「有松の庄九郎」を読んで	長谷川 匠	苫小牧市美園小	5年
・「有松の庄九郎」を読んで	河 毛 亜 美	苫小牧市錦岡小	6年
・努力の先にあるものとは	田 中 椿 姫	室蘭市白鳥台小	6年
・つなげるエコを楽しもう	大 場 悠 生	札幌市稲積小	6年
・命のつながり	小 林 拓 暉	室蘭市知利別小	5年
・人の気持ちの大切さ一夜の学校を読んで	齋 藤 啓 樹	滝川市東小	6年
・「夜の学校」を読んで	石 井 優 璃	旭川市知新小	5年
・蘭と私	竹 本 香 織	八雲町東野小	6年

優 秀 賞

中学校の部 (15名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・「小さいつが消えた日」を読んで	高 橋 理 子	岩見沢市光陵中	3年
・「置かれた場所で咲きなさい」を読んで	澤 田 真 衣	岩見沢市東光中	2年
・生きる幸せ	中 村 瑞 稀	砂川市砂川中	3年
・「世界から猫が消えたなら」を読んで	高 桑 美 夏	遺愛女子中	2年
・無限を秘めた空	中 野 梨 沙	北斗市上磯中	3年
・「チャーシューの月」を読んで	上 山 佑季奈	音更町緑南中	2年
・フェリックスとゼルダを読んで	福 井 和加奈	芽室町芽室西中	3年
・「完璧だけが答えじゃない」	富 田 理 大	登別明日中等教育	2年
・『ぼくが宇宙人をさがす理由』を読んで	竹 達 愛 紗	札幌市星置中	2年
・「叶える」ということ	佐々木 萌 利	岩見沢市光陵中	3年
・「全てのチャレンジに感謝」	鈴 木 ありす	滝川市明苑中	2年
・全ての命のために	秋 葉 紗 世	留萌市港南中	1年
・「捨て犬・未来 命のメッセージ」を読んで	櫻 間 麻 友	旭川市北門中	3年
・本当の優しさ	江 藤 春 花	岩見沢市光陵中	3年
・輝く命	山 崎 瑞 季	帯広市川西中	2年

高等学校の部 (5名)

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年
・ぼくは勉強ができない	林 由里子	旭川東高	2年
・「勝負」と「勝敗」	松 川 理 恵	旭川東高	2年
・老人と海を読んで～私の中にともった灯り～	伊 澤 佑 佳	札幌光星高	1年
・オーデュボンの祈りを読んで	原 萌 里	岩見沢東高	1年
・いまも走る蟹工船	田 栗 汐 織	函館中部高	1年

◆感想文集『北海道の読書』(平成25年度版)の普及を 第59回青少年読書感想文全道コンクール入賞作品集

○小学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良入賞者 全作品を掲載

○中学校・高等学校版 (1,000円)

特別・優秀・優良 (一部) 入賞者作品を掲載

【申し込み・問い合わせ先】

北海道学校図書館協会HP > 読書感想文コンクールについて > 北海道の読書について
札幌市立西岡南小学校 教諭 佐藤秀則 FAX 011-582-1590



優良賞

小学校（低学年）の部

小樽市潮見台小	1年	鈴木 芽依
北斗市上磯小	1年	伊藤 ゆず
岩見沢市栗沢小	2年	檜 琴音
岩見沢市南小	2年	小野 宏太
函館市深堀小	2年	菊地 由恵
函館市深堀小	2年	上貞 友鶴
室蘭市旭ヶ丘小	1年	齊藤 緑
室蘭市高平小	2年	田中 智也
滝川市滝川第二小	2年	荘司 尚温
滝川市滝川第三小	2年	町井 祐誠
室蘭市海陽小	2年	浅山 釉月
札幌市真駒内桜山小	2年	貸谷 文音
砂川市空知太小	2年	川口 結菜
教育大附属函館小	1年	竹田 壮汰
岩見沢市栗沢小	1年	小山 里緒
森町さわら小	2年	清水凛々愛
旭川市啓明小	2年	伊藤 飛陽
室蘭市八丁平小	1年	及川 叶愛
函館市高丘小	2年	竹村菜々美
函館市北美原小	1年	齊藤 愛菜
小樽市桜小	1年	吉村 行雲
札幌市平岸西小	2年	田中 理名
北斗市萩野小	2年	佐々木賢仁
函館市あさひ小	1年	木村 有里

小学校（中学年）の部

室蘭市大沢小	4年	成田 梨菜
小樽市緑小	4年	植村 柚香
北斗市萩野小	3年	川村 綾音
小樽市緑小	4年	山瀬 健
小樽市花園小	4年	石橋 彩芽
北斗市萩野小	3年	青山 彩希
函館市深堀小	4年	上貞 西輝

苫小牧市苫小牧東小	4年	森田悠太郎
旭川市永山小	4年	鴻上 遊馬
函館市港小	4年	秋江 峻
室蘭市武揚小	3年	脇坂 亜紀
岩見沢市日の出小	4年	村松 英泰
札幌市八軒小	3年	榎本 陽子
札幌市八軒西小	3年	丹羽真帆子
函館市中の沢小	3年	田中 拓人
室蘭市旭ヶ丘小	3年	加藤 花奈
森町駒ヶ岳小	3年	細岡瀬梨菜
函館市えさん小	4年	中野 歩
北斗市上磯小	3年	大森 瑠衣
士別市上土別小	4年	吉田 菜由

小学校（高学年）の部

北斗市上磯小	6年	大須田倅輝
旭川市東五条小	6年	西村 玲美
八雲町東野小	5年	菊地 颯
岩見沢市幌向小	5年	高橋 凜
室蘭市旭ヶ丘小	6年	附田 真鈴
函館市北美原小	6年	伊東 陽菜
留萌市緑丘小	6年	三上 紘輝
旭川市神居小	6年	片山 葉月
岩見沢市東小	6年	森田 歩理
三育学院函館三育小	6年	吉本 有秀
音更町下土幌小	6年	櫻木 花鈴
帯広市つつじが丘小	5年	長谷川絢加
増毛町阿分小	6年	齋 美聡
室蘭市旭ヶ丘小	6年	小田桐経規
岩見沢市志文小	6年	杉島 楓
北斗市谷川小	6年	池田 知尋
室蘭市旭ヶ丘小	6年	高橋 美穂
札幌市福住小	5年	鈴木俊太郎
室蘭市八丁平小	6年	堀 優明香

中学校の部

北見市南中	3年	松浦 るか
七飯町大中山中	2年	中島 結
札幌市新川中	1年	佐藤 佳歩
札幌市北辰中	2年	中川 はな
札幌市簾舞中	3年	伊田 晃都
帯広市翔陽中	2年	大久津 宝
遺愛女子中	1年	岩本 瑞菜
遺愛女子中	1年	後木 明里
砂川市砂川中	3年	木山 瑠夏
留萌市港南中	1年	大澤 美南
札幌市啓明中	2年	幸田 梨花
北斗市上磯中	1年	杉澤有瑠羽
留萌市港南中	3年	太田 敦子
森町森中	3年	大谷 佳央
旭川市東光中	3年	金澤 南奈
森町森中	2年	ジーン・ステイン
遺愛女子中	1年	館山 紋奈
北嶺中	1年	日達 智哉
旭川市常盤中	3年	藤田 恋
小樽市松ヶ枝中	3年	加能 里菜
北斗市石別中	2年	渡辺 颯菜
七飯町大沼中	2年	浦野 愛
室蘭市翔陽中	2年	北尾 剛寛
岩見沢市光陵中	3年	真邊穂乃香

高等学校の部

小樽校陽高	2年	野村さつき
室蘭清水丘高	3年	石川穂乃花
函館中部高	1年	神 文香
帯広緑陽高	1年	吉田 茉央
帯広緑陽高	3年	早川 明花
帯広北高	3年	小野寺 聖
遺愛女子高	1年	大山 七海

第35回全道高等学校図書研究大会（滝川大会）報告

第35回全道高校図書研究大会（道高文連主催）が10月10、11日の両日、滝川市総合福祉センターなどで開催されました。

1日目は、12の分科会が行われ、全道から集まった526名の図書館の生徒達が交流を深めます。第1分科会「学校図書館サミット2013～滝川で考える魅力ある図書館とは」では、参加した40名が図書館員としての悩みを付箋に書き出し、6～7人のグループで意見交換をしながら、その場で解決していきます。一つの悩みに対して、沢山の解決法が出されるため、付箋の枚数がどんどん積み重なっていきました。最初は緊張していたものの、3年生のリーダーを中心に、自分のお気に入り本を紹介しあう「アイス・ブレイク」ですぐに打ち解け、賑やかな雰囲気の中、どのグループも交流を深めることが出来ました。会場運営を支えた、岩見沢緑陵高校と岩見沢農業高校の図書館生徒のスムーズな進行や気配りに感心させられました。第5分科会「読書の魅力を発信する館報づくり」では、奈井江商業高校の生徒が運営にあたり、グループごとにテーマに沿った図書だよりを手書きで作成している様子が見られました。その他、第6分科会「ビブリオバトルをやってみよう」、第8分科会「学校図書館と新聞」、第10分科会「和綴じ装丁を用いた絵本作り」などそれぞれの分科会で、生徒達の積極的に活動する場面が見られました。夕方からは、生徒交流会が開かれ、各校の図書館報をもとに、自由に意見交換が出来る貴重な時間となりました。

2日目は、ドイツ文学者・エッセイスト池内紀氏を迎えての記念講演です。「本を読むという習慣」と題して、幼少時の体験や学生時代の苦労談、日本語の変化の大きさなど高校生にもとてもわかりやすい事例を紹介し、読書のもつ力や、面白さなど本についての魅力を存分に語っていただきました。

最後に、「図書館報コンクール」の表彰式が行われました。入賞校は次の通りです。

- ▽最優秀賞 札幌月寒、札幌南
 - ▽優秀賞 北広島西、帯広柏葉、北見北斗、札幌藻岩
 - ▽優良賞 札幌白石、清水、奈井江商業
 - ▽奨励賞 網走桂陽、石狩南、大麻、帯広三条、帯広緑陽、札幌清田、札幌稲雲、苫小牧南、登別青嶺、函館ラ・サール、室蘭栄
- （文責 北海道北広島西高等学校 司書教諭 畠師広光）



第55回(平成25年度) 北海道図書館大会 平成25年9月5日 北海学園大学7号館

第2分科会 「学校図書館と公共図書館の連携の在り方 —百科事典を学習で活用するために—」

講師：株式会社ポプラ社執行役員・ポプラディア事業局局長 飯田 建氏

講師である飯田氏は初版の『総合百科事典ポプラディア』(2002年、ポプラ社)からポプラディアネット、月刊ポプラディア、そして改訂版(2011年)まで百科事典の制作・広報などに関わり、様々な学校、地域で授業や講演をしてこられた方である。本分科会では、小学3年生から大学生までの子どもたちを対象とした授業を実演しながら、子どもたちがどのようところで躓き、また理解を深めていくかということを中心に発表された。

1、置いてあるだけでは使われない、使えない

- 出張授業では、小学3年生の3学期から、中学2年生、大学の司書教諭講習で行っているが、どの子も使いこなせていない。
- 授業では6班に1セットずつ実物をわたし、実際に引きながら使い方を教えている。ワークシートは班に1枚ずつ渡す。実際の流れは、資料で配られた「百科事典を使ってみよう」指導案の流れに沿っている。何となく探し当てた項目を、順を追って見つけられるように指導していく。



2、利用指導のポイント

- ワークシートにより実際に百科事典に触れさせ、気付いたことを発表させる。→「辞書より絵や写真が多い」「横書きに書いている」「あいうえお順に並んでいるところが似ている」「調べたいことが載っている」など辞書、図鑑との違いに気付く。
- 「見開き」「つめ」「はしら」の説明を行う。「はしら」を見ることでどのページにあるかがわかるようになる。→ポプラディアの「はしら」のルールは、①はじめとおわり②4文字目まで③全部ひらがな表記④ちいさい「つ」「よ」は大きく。何となく開いて見つけていた子どもも、「はしら」を見ることでこのページにあるはずだということがわかる。
- 「見出し語」+説明=項目の説明をする。→ポプラディアでは2万5千語掲載。
- 見出し語を見つけれないときには、他の言葉や本当の名前で探す。→調べられるキーワードを見つけれられるようになることが大事。「チャーシュー」「ガンダム」「カップヌードル」など実際にさがしてみることで、まとめてなんというか、本当の名前は何か、あきらめずに考えさせる。
- 「索引」の見方を指導する。→5万語が掲載。「スピードガン」から項目以上に載っている索引を活用することの良さを教える。



- 「青字」～ほかの項目にもなっている。「赤字」～ポプラディア情報館の掲載ページ
- 旧版との違いを説明。→本ができたときが決まっているので、出版年を確認する必要がある。旧版には「オバマ米大統領」が、新刊には「東日本大震災」が載っていない。
- 「奥付」を確認する意味～①その本に感謝②出版年がわかると書いていないことを考えるきっかけになる③別な本との比較④いつでも資料に戻ることができる。

3、インターネットと比べて

- 図書は人類の知恵の集まり。図書を使えるということは、人類の知恵を上手に使うことである。
- インターネットは、早く便利。しかし本当ではないものも多い。→信じていい相手かどうかを確認する必要がある。
- 図書で調べることで知識の絞り込みをしながら体系を知ることができたが、インターネットは知りたいことだけにつながる。生まれた時からインターネットがある子どもたちには、両方の良さを使い方を教える必要がある。

4、連携の在り方の提案(場所・物・人)

- 公共図書館で相談に乗る際には、子どもたちがどこでつまづくのかを知って相談に乗ってほしい。
- 学校図書館には基本になる図書をそろえ、公共図書館にはさらに必要となる図書を貸し出してほしい。

5、『船を編む』のごとくに編む。

- 2002年初版作成に向けて考えたことは、①10万円を切ること。②ジャンル別か五十音別か。～手間はかかるが五十音に。③項目の設定～全教科書から洗い出し、さらにさまざまな辞書、図鑑を参考に④ジャンルに分けてもう一度見直し～2万3千語に決定。
(文責 札幌市立小野幌小学校 司書教諭 山田佳子)

学校図書館情報

◆第46回北海道学校図書館研修講座へ参加を基本がわかる！ 具体的にわかる！

- ・日時 1月7日(火)～9日(木)
- ・会場 北海道立道民活動センター (かでの2・7) 他
- ・講演 「学校図書館の力」
元藤女子大学教授 渡邊 重夫 氏
(北海道学校図書館協会 顧問)
- ・講義・実習・討議・交流の充実した3日間
※詳しくは案内要項またはHPでご確認ください。

◆第41回中学生作文コンクール審査終了

作品応募、審査協力ありがとうございました。
「ありがとう」のテーマで2万点を越える多くの作品が寄せられました。

結果発表は、1月4日(土)毎日新聞朝刊の予定です。

中央表彰式 1月7日(火) 13:00～15:00

北洋大通センター 4F セミナーホール

日胆地区：1月8日(水)室蘭市

道南地区：1月9日(木)函館市

道東地区：1月10日(金)釧路市

道北地区：1月14日(火)旭川市

◆学校読書調査・学校図書館調査結果を公表

全国SLA・毎日新聞社が毎年行っている「学校読書調査」、全国SLAが毎年行っている「学校図書館調査」の今年度の調査結果(一部)を全国SLAホームページに掲載しています。

▼「第59回読書調査」の結果

▼「2013年度学校図書館調査」の結果

各調査の全項目の結果および詳細な分析は、機関誌『学校図書館』11月号に掲載しています。

◆文科省、学校図書館活用の取組事例を紹介

文部科学省は9月30日、同省のホームページに「学校や地域の取組から学ぶ学校図書館を活用した取組事例集(平成24年度)」を掲載しました。

「学校図書館を活用した確かな学力の基盤づくりを」
(草津市立山田小学校)

「図書館からの探究型学習支援プログラムの考案」
(学校法人同志社)

など、11の取組がまとめられています。

▼文部科学省サイト>学校図書館関係資料

事務局

事務局長 齋藤 昇一 (札幌市立藻岩中学校校長)

TEL 011-571-6039

FAX 011-572-3333

事務局校 札幌市立平和通小学校

事務局次長 野村 邦重

〒003-0027 札幌市白石区本通15丁目北3-1

TEL 011-863-0235 FAX 011-863-0265

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用ください。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15

TEL (011) 857-3331

FAX (011) 857-5211

◆学校図書館は、新たな授業づくりを応援します。

東京学芸大学サイト>授業に役立つ学校図書館活用データベース

「授業事例」や「テーマ別ブックリスト」など、役立つ情報が掲載されています。

是非、「お気に入り」に登録して活用を!

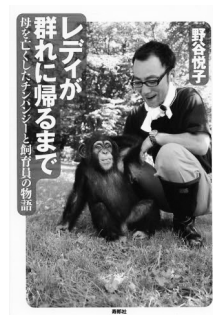
◆『レディが群れに帰るまで 母を亡くしたチンパンジーと飼育員の物語』

8月29日発売 著/野谷悦子

寿郎社 1400円+税

札幌の円山動物園で人工保育されたチンパンジー・レディが群れに戻るまでの4年半の記録。

チンパンジーの生態や飼育の舞台裏とともに克明に綴った感動のノンフィクション。



編集後記

集中豪雨や台風による災害の多かった秋が終わり、いよいよ本格的な冬がやってきました。今年も残すところ1か月、お忙しい毎日が続いていることでしょう。本号は第59回青少年読書感想文全道コンクールの特集号です。各地から届いた感想文からは児童生徒の皆さんの感動と共に、一人一人の努力や工夫のあとが読み取れます。また一年間色々な本を読んで、楽しい読書生活を送ったこともうかがい知れます。来年も良い本に出会いその感動を伝えてほしいと思います。

(編集：齋藤 昇一 杉本 操 村山 知成)
大久保雅人 野村 邦重

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>